

(注) 令和6年12月に資料3の更新版を配付する予定です。

資料3

調整中

令和7年度全国学力・学習状況調査

CBT（オンライン方式）での実施に向けた 各学校等での準備について

令和6年10月時点

文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当） 付学力調査室

目 次

1. CBT（オンライン方式）での実施に向けた各学校等
での準備（概要） …P3
2. 学校ネットワーク・端末等の確認【事前準備 1】
…P7
3. MEXCBTを使用するための事前準備【事前準備 2】
…P17
4. サンプル問題（中学校理科）を活用した事前検証
【事前準備 3】 …P26

1. CBT（オンライン方式）での実施に向けた各学校等での準備（概要）

- (1) 小学校等での準備
- (2) 中学校等での準備

(1) 小学校等での準備

小学校調査のうちオンライン方式で実施するものは、令和6年度調査と同様です。
令和6年度調査と同様の準備をお願いすることとなります。

令和7年度調査のうちオンライン方式で実施するもの（小学校等）

	オンライン調査 本番の実施日程	オンライン方式で 活用するシステム	小学校等における 事前準備
児童質問調査	4/18(金)～4/30(水)のうち、 文部科学省から指定された日（※）	委託事業者のWebシステム	（令和6年度調査と同様）
学校質問調査	4/1(火)～4/17(木)のうち任意の日 （実施日の報告等は不要）	委託事業者のWebシステム	（令和6年度調査と同様）

（※）実施希望日を、**令和7年1月頃に実施するC調査**（小学校等の学校基本情報確認を行う）において調査します。
決定した実施日はWebシステムにてお知らせする予定です。

(2) 中学校等での準備

中学校調査のうちオンライン方式で実施するものは、以下のとおりです。
赤字部分が令和6年度調査との相違点であり、各中学校等においては、【事前準備1～3】を実施していただくようお願いします。

令和7年度調査のうちオンライン方式で実施するもの（中学校等）

	オンライン調査 本番の実施日程	オンライン方式で 活用するシステム	中学校等における 事前準備
生徒質問調査	教科調査「理科」の実施日と同じ	MEXCBT	(令和6年度調査と同様)
教科調査 「理科」	4/14(月)～4/17(木)のうち、 文部科学省から指定された日(※)	MEXCBT	【事前準備1】学校ネットワーク・ 端末等の確認 【事前準備2】MEXCBTを使用する ための準備 【事前準備3】サンプル問題を活用 した事前検証
学校質問調査	4/1(火)～4/17(木)のうち任意の日 (実施日の報告等は不要)	委託事業者の Webシステム	(令和6年度調査と同様)

(※) 実施希望日を、令和7年1月頃に実施するD調査（中学校等の学校基本情報確認を行う）において調査します。
決定した実施日はWebシステムにてお知らせする予定です。

中学校等における事前準備について（概要）

【事前準備1】学校ネットワーク・端末等の確認

学校のネットワークや端末が日常的に不具合なく使用できているか確認し、不具合がある場合には対応する。【教育委員会・全中学校等】

詳細は2

【事前準備2】MEXCBTを使用するための準備

MEXCBTを用いたオンライン調査方法と注意事項を確認する。【全中学校等】
MEXCBTの使用に必要な手続きを行う。【必要に応じて】

詳細は3

【事前準備3】サンプル問題を活用した事前検証

サンプル問題（中学校理科）に取り組み、MEXCBT上での理科の問題の閲覧、解答等を正常に行えるかなど ICT 環境・端末操作の確認を行う。
【全中学校等】

詳細は4

2. 学校ネットワーク・端末等の確認 【事前準備 1】

学校のネットワーク・端末における一般的な不具合とその対応について

学校のネットワーク及び端末の確認

- 教育委員会は、日頃より学校のネットワークや端末に不具合が無く端末を活用できていることを確認することが重要。
- 日常的に端末を不具合なく活用できていることが、CBTの実施においても、大きなトラブルが無く実施できることに繋がると考えられる。

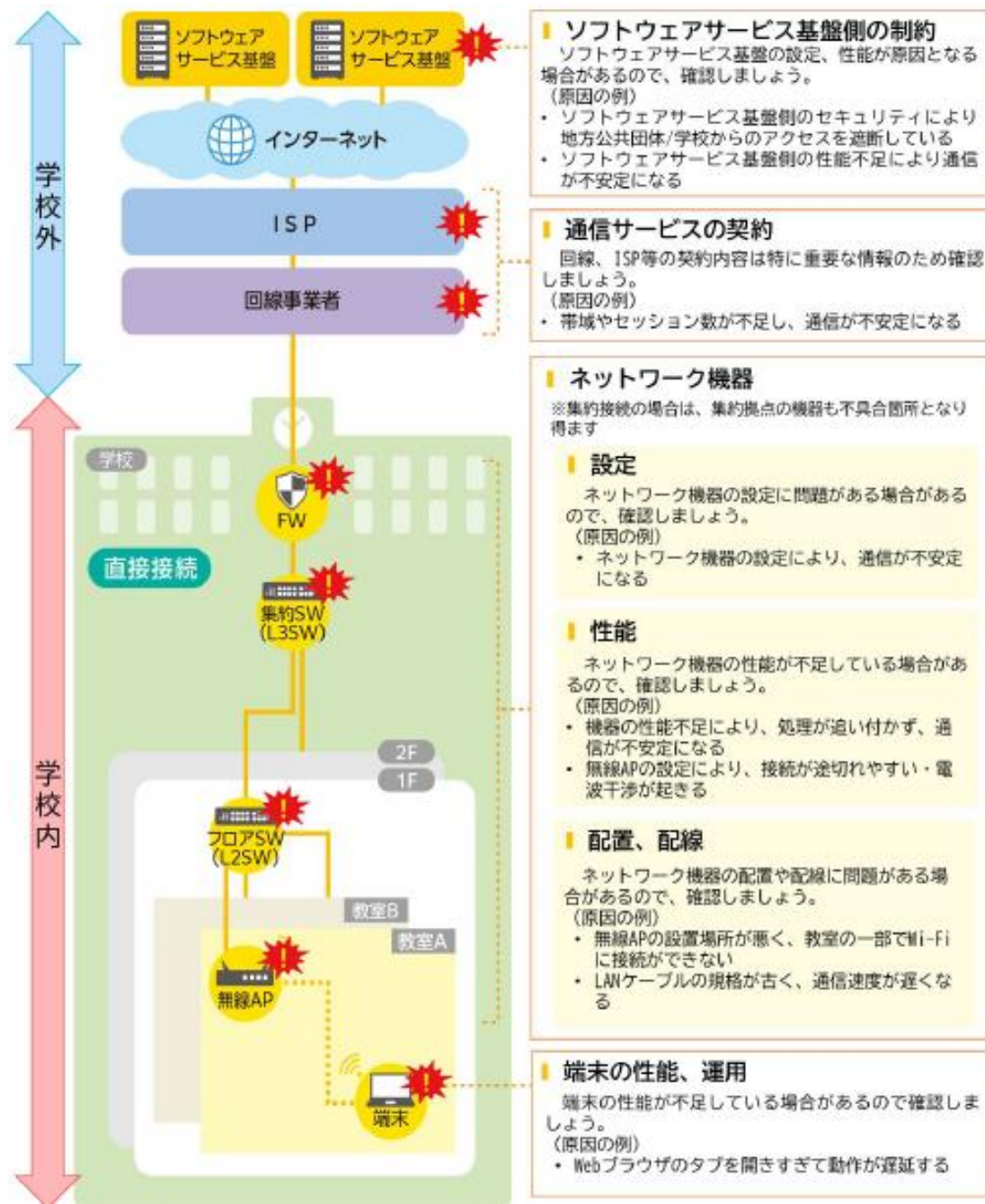
ネットワーク

- ・ 同時に全ての授業において、多数の児童生徒が高頻度で端末を活用しても、「ネットワークが遅い」「繋がりにくい」等といった不具合が起きていないこと
- まずは、文部科学省が示した「**当面の推奨帯域**」を満たすことを目安として、アセスメント調査や体感調査を実施（「当面の推奨帯域」を満たしていたなくてもCBTのみの実施が可能な場合もある。）

端末

- ・ 端末を日常的に活用する中で、「端末の動作が遅い」「故障していて使えない」等といった不具合が起きていないこと

不具合箇所とその原因のイメージについて



学校の回線契約の確認

学校内の配線やネットワーク機器のスペック・設定の確認

端末のスペックや設定の確認

GIGAスクール構想の実現

学校のネットワーク
改善ガイドブック
令和6年4月

詳細は、「学校のネットワーク改善ガイドブック」を御確認ください。

学校のネットワーク課題把握のためのアプローチ

- **当面の推奨帯域を満たすことは、学校のネットワークの改善の必要条件の一つ。**
- ネットワークの改善は、児童生徒や教職員の体感改善のために行われるべきであることから、帯域測定とあわせて**ユーザ体感調査を実施することが必要**。※ユーザ体感調査により、帯域測定だけでは判明しない校内NWの不具合の把握が可能となる。

簡易帯域測定とユーザ体感調査の進め方

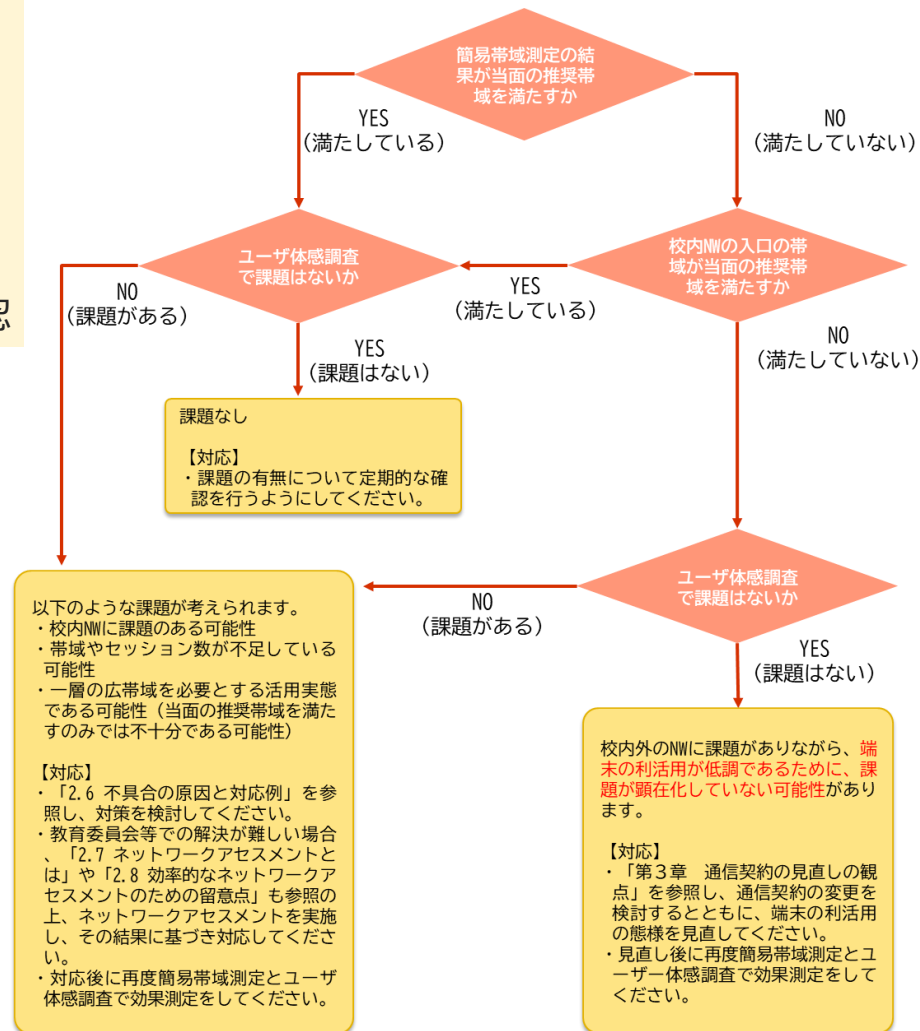
- ◆ 教育委員会等から、簡易帯域測定とユーザ体感調査を学校に依頼
- ◆ 教育委員会等において、簡易帯域測定とユーザ体感調査の結果から「ネットワーク課題把握のフローチャート」に沿って課題の有無を判定
- ◆ 簡易帯域測定の結果が当面の推奨帯域を満たしていない場合は、追加で校内ネットワークの入口の帯域が当面の推奨帯域を満たしているか確認

※詳細は、学校のネットワーク改善ガイドブックを参照すること。

(参考)校内ネットワークの入口の帯域を確認する方法の例

- ①簡易測定結果に1.4を乗じた数値を校内ネットワークの入口の帯域と仮定し、これが当面の推奨帯域を満たすかを確認
- ②集約SW（L3SW）直下での有線での帯域測定
- ③校内ネットワークの入口にあるルータにトラフィック流量のモニタリング機能が備わっている場合は、当該機能を用いてトラフィックのピーク値が当面の推奨帯域より大きいものであるかを確認

※①の方法は、通信が校内ネットワークを巡る過程での帯域の減衰について一定の仮定を置いて計算するものであり、学校のネットワークの実態を正確に把握するものではない点（無線の距離による減衰の他、使用する規格や機器のアンテナ数によっても値が低くなる等）に留意してください。



※集約接続の場合、集約拠点側（集約後の区間）においても、集約している全校が接続しても支障のない帯域が確保されているのか確認する必要があります。

学校の回線契約について

- **2 Gbps未満の契約をしている学校は約95%。**
- また、ベストエフォート回線は、他のユーザと回線を共有するため、実際の回線帯域は込み具合によって変化することから、理論値の3割が実効速度と仮定すると、**1 Gbpsのベストエフォート回線の実効帯域は約300Mbps**となる。
- これらの状況を踏まえると、1 Gbpsベストエフォート回線の契約では、**151人以上の規模の学校においては、「当面の推奨帯域」を満たせる可能性は低くなると考えられる。**

※ 1 Gbpsのベストエフォート型サービスであっても、共有数が少なく、これ以上の実効帯域を期待できるものもある。

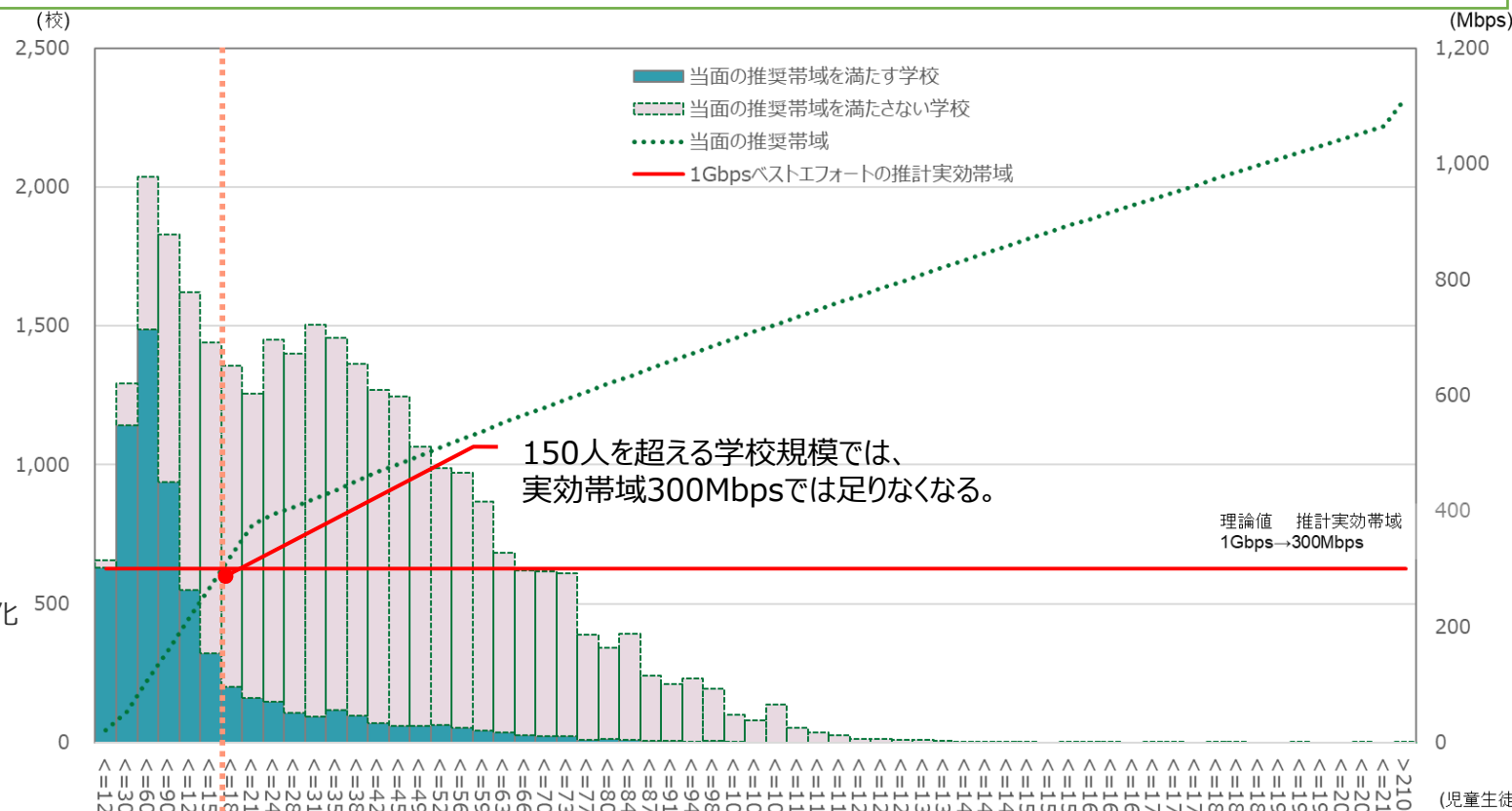


来年度の教科調査「理科」のCBT実施において、この帯域が必ずしも必要というものではないが、学校における利用において、ネットワーク帯域に起因するトラブルが起きていないためには必要な水準であり、**学校規模に見合った回線契約は必要**。また、帯域の他、**契約しているセッション数（ポート数）も重要である**。

固定回線における学校の接続
回線速度※

接続回線速度	学校数
1 Gbps未満	10,546校 (33.7%)
1 Gbps以上 2 Gbps未満	19,310校 (61.6%)
2 Gbps以上	1,477校 (4.7%)
合計	31,333校 (100%)

(※)令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査



(児童生徒数)

ネットワークアセスメントにおいて判明した課題

実施有無	設置者数	割合
実施	744	41.0%
(うち全校実施)	(570)	(31.4%)
実施なし	1,071	59.0%
合計	1,815	

※速報値のため、今後変更の可能性あり



アセスメント実施済
の自治体で判明した
課題

	アセスメントにより課題が発見された自治体数		原因	設置者数	
①機器の設置位置や配線等	145	19.5%	・配線の不備	28	3.8%
			・配線・機器の老朽化	44	5.9%
			・機器設置位置の不備	70	9.4%
②無線AP	159	21.4%	・無線APの電波干渉	56	7.5%
			・無線APの設定不良	59	7.9%
			・無線APの性能不良	60	8.1%
③無線AP以外の機器	78	10.5%	・無線AP以外の機器の設定不良	15	2.0%
			・無線AP以外の機器の性能不良	52	7.0%
④回線（通信回線やISP等）	195	26.2%	・帯域の不足	152	20.4%
			・セッション数の不足	55	7.4%

ネットワークアセスメントによる改善例

- LANケーブルの長さを100メートル以下とすることや機器への接続数の見直しなどにより改善。
- 無線APの電波設定を5GHzの電波を優先的に接続する設定に変更することで改善。
- 校内のファイアウォールの設定変更により改善。
- 大規模校のルーターをより上位機種に交換することにより改善。
- 通信回線を1Gbpsから10Gbpsに変更するとともに、周辺機器も10Gbpsに対応する機器に変更することにより改善。
- 校内ではなくプロバイダ側に回線の輻輳が見られたため、プロバイダの接続方法を変更することにより改善。

学校や教育委員会による、学校のネットワーク環境の**不具合確認や改善策検討**が難しい場合は、**事業者**に**確認を依頼**（ネットワークアセスメント）することも想定されます。その際は、**ネットワークアセスメント実施促進事業（初等中等教育局学校情報基盤・教材課）**の活用も検討してください。 **※追加募集中です。**

端末における不具合

- **教育委員会**は、「学校の不具合情報が共有されているか」「不具合が解消されているか」等の確認の他、このような**不具合が起きていないかを、主体的に確認し、不具合の解消に対応**することが重要。
- 学校は、日常的に端末を使用している際に、「活用に支障をきたしていないか」「端末が故障していないか」等の観点で確認するとともに、**不具合が起きている場合は教育委員会に情報を伝えることが重要**。

想定される端末の不具合の例

- OSのアップデートやセキュリティアップデート等の最適な配信設定がなされておらず、多数の端末に対して一斉に実施され、ネットワークや動作が重くなる。
→CBT調査の実施中や授業中には実施されないよう、**配信の最適化（時間帯の調整や使用帯域の制限）を行う**
- 児童生徒が使用する端末が故障（バッテリー、画面、キーボード等）しているが、修理されていない。
→故障した端末の修理や代替端末による速やかな対応
- 端末のスペックを踏まえずに、コンピュータリソースを多く消費するソフトウェアがインストールされており、動作が重い。
→文部科学省が示している端末のスペックは、高速ネットワークを活用しクラウドにアクセスした活用を基本とした最低スペック基準。
スペックを踏まえないソフトウェアの導入は端末の動作遅延の原因となる可能性がある。

(参考) 一般的なトラブルの例①

通信サービスの契約

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
1	・インターネット通信が遅い	使用しているセッション数が、契約しているセッション数の上限を超えてしまい、セッション数が不足する	・通信契約の見直し（動的グローバルIPアドレスから固定グローバルIPアドレスへ変更）	・机上調査 ・レイテンシ調査 ・スループット調査 ・セッション調査
2		ベストエフォート型回線において、回線が混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し（回線種別の変更）	
3		ISPが混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し（ISPの変更）	
4		PPPoE方式の設備が混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し（IPv6接続に変更）	

ネットワーク機器の設定

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
5	・インターネット通信が遅い	ネットワーク機器が、本来の性能を発揮できず、校内LANで帯域が不足する	・適切な設定がされているか確認	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
6		校内LANのネットワーク機器で通信帯域制限を設定し、校内LANで帯域が不足する（例：無線APで10Mbpsに制限され、大容量の通信の際には遅延が発生する）	・通信帯域制限の見直し	・机上調査 ・トラフィック調査
7	・インターネット通信が遅い ・無線LANが切れてしまう	無線AP同士が電波干渉し、無線LANの接続が不安定になる（例：2.4GHz帯の無線LANしか使用しておらず、電波干渉を起こしている）	・無線APのチャンネル変更 ・チャンネル干渉の自動回避設定	・机上調査 ・電波干渉調査
8		無線APの電波強度が不足し、無線APから距離が離れると通信が不安定になる	・無線APの増設 ・無線APの電波強度の変更	・机上調査 ・電波干渉調査 ・ヒートマップ調査
9		2.4GHz帯の電波を使用する無線APに接続していたことで、複数台端末を無線APに接続すると通信が不安定になる	・5GHz帯の電波を新規設定	・机上調査 ・スループット調査 ・レイテンシ調査 ・トラフィック調査
10		無線APの帯域不足（例：Wi-Fi 4等の古い無線規格を用いて通信していたことで、帯域が不足する）	・Wi-Fi 6等の無線規格へ変更 ・チャンネルボンディング設定 ・ストリームの多い無線APへの更改	
11	・教室間の移動などで無線LANが切れてしまう	無線APの接続切り替わり不良により、教室間の移動などで無線LANの接続が不安定になる	・無線APのローミング設定の見直し	・机上調査 ・ローミング調査

※詳細は、学校のネットワーク改善ガイドブックを参照すること。

(参考) 一般的なトラブルの例②

ネットワーク機器の性能

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
12	・インターネット通信が遅い	老朽化で機器の動作が不安定になることで、通信が正常に処理できない	・新しいネットワーク機器への更改	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
13		ネットワーク機器の処理性能が低いため、通信が正常に処理できない	・新しいネットワーク機器への更改	
14		FWでのセキュリティ機能の処理の負荷が高く、インターネット通信が遅くなる	・新しいネットワーク機器への更改 ・設定の見直し	
15		アプリケーションフィルタリングやコンテンツフィルタリング機能によりインターネット通信が遅くなる	・コンテンツフィルタリングの機器（プロキシサーバ、FW）の更改 ・クラウドサービスの場合、コンテンツフィルタリングサービスの見直し ・アプリ、コンテンツフィルタリングの見直し	
16	・インターネット通信が遅い ・無線LANが切れてしまう	無線APの接続台数が過剰となり、通信が不安定となる（例：2教室で1台の無線APを共用することにより、接続台数が増加し、通信帯域が低下する）	・無線APの増設 ・新しい無線APへの更改	

ネットワーク機器の配置、配線

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
17	・インターネット通信が遅い	ネットワーク機器の構成の不備 （例：ネットワーク機器が数珠つなぎになっており、特定機器に通信が集中し、通信が処理できなくなる）	・ネットワーク構成の見直し	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
18		配線の老朽化 （例：LANケーブルが老朽化で一部断線して、通信が不安定になる）	・新しいLANケーブルの配線	—
19		古い規格のケーブル （例：LANケーブルのカテゴリが4で1Gbpsの通信に対応しておらず通信が低下する）	・新しい規格のLANケーブルの配線	・机上調査
20	・インターネット通信が遅い	機器設置位置の不備 （例：無線APの設置場所が不適切で、建物の構造等による影響を受けていた）	・無線APの設置場所の変更	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査
21	・無線LANが切れてしまう	適切な距離に無線APが設置されておらず、教室間の移動をすると無線LANが切れてしまう	・無線APの増設 ・無線APの設置場所の再検討	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査 ・ローミング調査
22		適切な距離に無線APが設置されておらず、無線AP間で電波が干渉し、無線LANの接続が不安定になる	・無線APの設置場所の変更 ・無線APの電波強度設定の変更	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査 ・電波干渉調査
23		古い無線APと新しく整備した無線APの電波が干渉し、無線LANの接続が不安定になる	・古い無線APの停止、撤去	・机上調査 ・電波干渉調査

(参考) 一般的なトラブルの例③

ソフトウェアサービス基盤側の制約

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
24	・特定のソフトウェア（クラウドサービス）を使った時に遅くなる	ソフトウェアサービスが正常に提供されていない	・事業者のホームページ等で提供状況を確認	—
25		ソフトウェアサービス側で学校からのアクセスを攻撃と誤検知して遮断している	・事業者を確認し、遮断されている場合は解除を依頼	—
26		ソフトウェアサービス側のサービス提供基盤の処理速度が遅い	・事業者においてサービス提供基盤の増強が計画されているか確認	—

端末の性能、運用方法

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
27	・インターネット通信が遅い	OSのアップデートが帯域を占有	・OSアップデートの分散化	—
28	・無線LANが切れてしまう	Webブラウザのタブの開きすぎによるメモリの過剰な消費	・多数のタブを同時に開かないようにする	—
29	・ソフトウェアを使った時に遅くなる	OSが最新のバージョンにアップデートされていない	・OSアップデートを定期的実施	—
30		ウイルス感染による端末性能低下や不要な通信の増加	・ウイルス駆除	—
31		ソフトウェアによる端末リソース（CPU・メモリ等）の消費	・不要な常駐ソフトの削除	—

3. MEXCBTを使用するための 事前準備 【事前準備 2】

- (1) MEXCBTを用いたオンライン調査方法と注意事項
- (2) MEXCBT関係手続きの流れ
- (3) 学習eポータル標準準拠ソフトのアカウント発行
手続きイメージ

(1) MEXCBTを用いたオンライン調査方法と注意事項

①全国学力・学習状況調査をMEXCBT上で実施する際の一連の流れ

- MEXCBTは、活用する基本的な流れは以下のとおり。

- ① 調査開始前までに、教師は、問題を配信する。
- ② 調査当日、児童生徒は、学習eポータルからMEXCBTにアクセスする。
- ③ 調査当日、児童生徒は、問題を解く。
- ④ 調査終了後、児童生徒は、調査終了ボタンを押して、終了。



②全国学力・学習状況調査をMEXCBT上で実施する際の注意事項

MEXCBTでの調査を実施するに当たっては、以下の事項にご注意ください。結果を正しく返却できなくなります。

【注意事項1】学習eポータルアカウントについて



学習eポータルのアカウントは必ず一人一人に割り当てられたものを使用してください。

学習eポータルのアカウントは共用せず、**必ず1人につき1アカウント**を割り当てます。

(学習eポータルのアカウント毎に、MEXCBTに答案用紙(答案データ)が作成されます。)

同じ学習eポータルアカウントを使用して複数回解答する場合は、解答が上書きされてしまうため、複数人で同じアカウントを使い回さず、自分のアカウントを利用してください。

教員は、生徒が調査で利用するアカウントで問題の確認等を絶対にしないでください。

アカウントの追加発行には時間がかかる場合があるので、極力早期に実施をしてください。

【注意事項2】答案番号



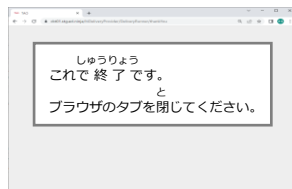
答案番号を誤ると調査実施や結果返却を行えなくなるため、誤った答案番号を入力しないでください。誤りを防ぐため、答案番号はQRコードの読み取りにより入力してください。

調査問題へ解答する際には、最初に答案番号の入力画面が表示されます。

答案番号は本調査固有の番号となり、事前に調査問題に設定されている番号でのみ、解答を開始することができます。誤った番号を入力した場合は、エラーとなり解答に進むことができません。また、他の生徒の答案番号を入力すると、結果返却を正しく行えなくなります。

本調査においては生徒ごとに配付する「答案番号シール票」に記載されているQRコードを読み取ることで、正しい答案番号を入力することができます。

【注意事項3】調査終了時



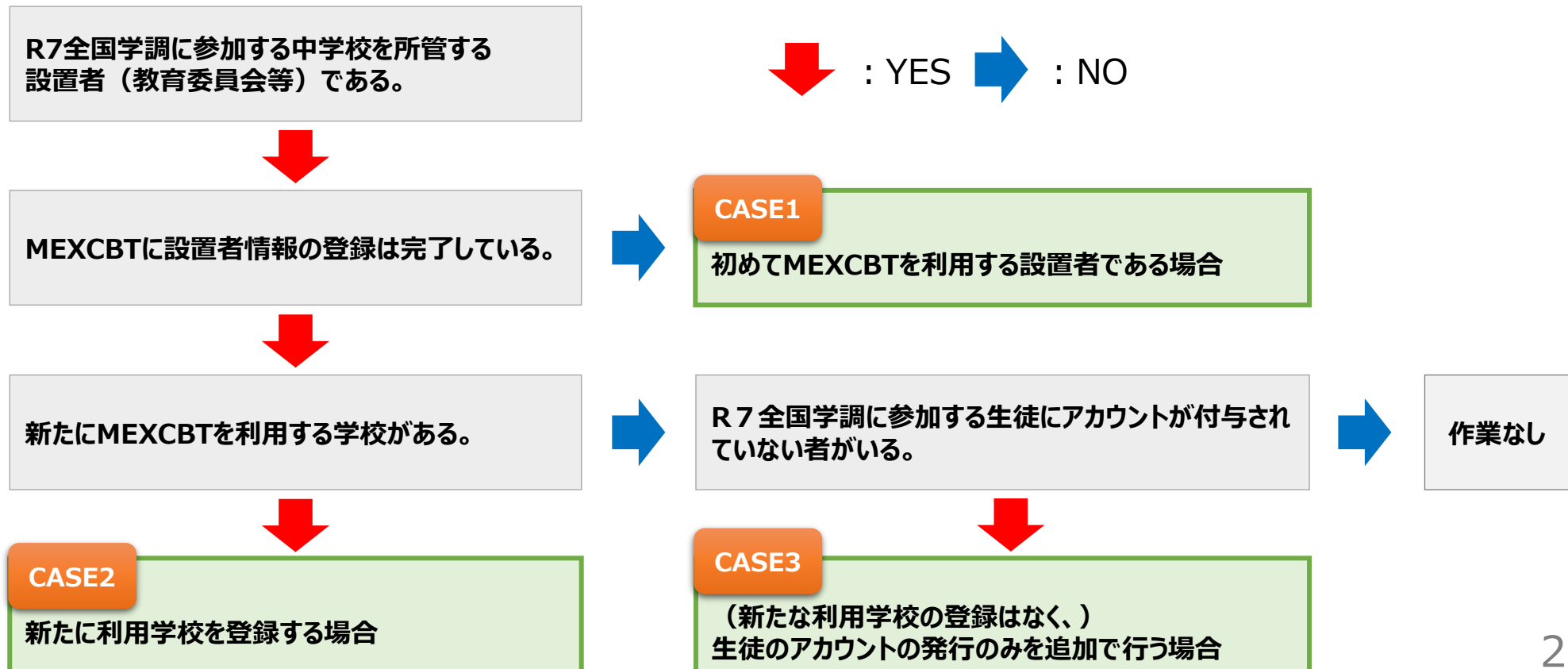
調査終了時には必ず最後のページで右下の「終了」のボタンをクリックしてください。

最後に「これで終了です。ブラウザのタブを閉じてください」という画面まで進まないと、解答データが提出されません。

(2) MEXCBT関係手続の流れ

- 令和7年1月～3月に全国学調の事前検証があるため、アカウントの発行が完了していない場合は、以下の手続きに従って申込を行ってください。
- 申込の状況によっては遅れる可能性もあるため、11月には速やかに手続きをスタートするようにしてください。

(参考) 必要な手続きを確認するフローチャート



【参考】CASE 1：初めてMEXCBTを利用する設置者である場合

設置者の担当者が実施する内容

学校の担当者が実施する内容

登録情報の
追加・修正

「運用支援サイト」MEXCBT利用申込の「1. 設置者情報新規登録」をクリック。

利用学校の
登録

公立学校の設置者は「2. 利用学校登録」から利用申込を行いたい学校の情報を登録してください。
※設置者にて利用を希望する学校を取りまとめて申込みいただきます。

学校情報の
登録

登録された学校担当者メールアドレス宛てに「学校情報登録依頼」が送信されます。学校担当者は、「1. 学校情報修正」より、利用学年やアカウント概数等を登録します。
※アカウント概数等の登録が必須となります。

利用準備・
通知

MEXCBT、学習eポータル標準モデル準拠ソフト事業者等による利用開始準備や通知を行います。
※利用開始手続きについては、活用する学習eポータル標準モデル準拠ソフトにより異なります。
※運用支援サイトに入力された情報をもとに、設置者、学校担当者に別途事業者等から連絡されることがありますのでご承知おきください。
※活用する学習eポータル標準モデル準拠ソフトにより手続きが異なりますので、当該事業者の指示する方法によりアカウントの発行手続きを行ってください。

MEXCBT
活用開始

教員及び生徒は、学習eポータル標準モデル準拠ソフトを窓口として、MEXCBTの利用を開始します。
※運用の手順等は「MEXCBT運用マニュアル」参照

MEXCBT

※Internet Explorerには対応しておりません。Microsoft Edge、Google Chrome、Safari

設置者（公立）

1 設置者情報 新規登録

2 利用学校 登録

4 登録情報 確認修正

5 ファイル 管理

6 テスト作成 サイト 利用申込

※テスト作成サイトの利用申込を行うには、「1 設置者情報新規登録」が必要となります。

設置者（国立・私立）

1 設置者情報 新規登録

3 管理学校 追加

4 登録情報 確認修正

5 ファイル 管理

6 テスト作成 サイト 利用申込

学校担当者

1 学校情報 修正

2 ファイル 管理

※公立、国立・私立の設置者と学校担当者でメニューが分かれています。
上は公立学校の登録情報の追加を行う例です。

令和7年度新設校については、令和7年1月初めを目途に作業開始可能時期を別途連絡します。

【参考】「運用支援サイト」での利用に関する手続きのイメージ

MEXCBTに関する設置者や利用学校の登録は、運用支援サイトで行います。

- ✓ 新規申込時のユーザー名とパスワード（右の画面）は【令和6年3月27日付事務連絡「文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メグビット）」の活用募集について（依頼）】を参照してください（右下の画面の①をクリックした際に要入力）。
- ✓ 必ず利用申込ページに掲載の＜留意事項および申込の流れ＞をよくお読みいただいたうえでお申し込みください。

このサイトにアクセスするにはサインインしてください
https://c128e0e1.form.kintoneapp.com では認証が必要となります

ユーザー名

パスワード

利用申込サイトイメージ



②をクリックして移動した次のページから各種登録・修正を行おうとすると右のログインが表示されるので、「メールアドレスでログイン」をクリックしてください。
ここで入力するメールアドレスは、当該設置管理者内で、
最初にMEXCBTの利用申込を行ったときに登録したメールアドレスです。

（例えば他の課の担当者が最初に利用申込を行った場合、その課のメールアドレスが設定されていることがあります。設置管理者内を尋ねても不明な場合はMEXCBTコールセンターにお尋ねください。）

当該メールアドレスにログイン用のURLが記載されたメールが送信されますので、そのURLからログインできます。



（運用支援サイトURL・二次元コード）

<https://support2.mexcbt.mext.go.jp>



【参考】CASE 2：新たに利用学校を登録する場合

設置者の担当者が実施する内容

学校の担当者が実施する内容

登録情報の
追加・修正

「運用支援サイト」MEXCBT利用申込の「登録情報の確認・修正」をクリック。

利用学校の
登録

公立学校の設置者は「2. 利用学校登録」から利用申込を行いたい学校の情報を登録してください。
※設置者にて利用を希望する学校を取りまとめて申込みいただきます。

学校情報の
登録

登録された学校担当者メールアドレス宛てに「学校情報登録依頼」が送信されます。学校担当者は、「1. 学校情報修正」より、利用学年やアカウント概数等を登録します。
※アカウント概数等の登録が必須となります。

利用準備・
通知

MEXCBT、学習eポータル標準モデル準拠ソフト事業者等による利用開始準備や通知を行います。
※利用開始手続きについては、活用する学習eポータル標準モデル準拠ソフトにより異なります。
※運用支援サイトに入力された情報をもとに、設置者、学校担当者に別途事業者等から連絡されることがありますのでご承知おください。
※活用する学習eポータル標準モデル準拠ソフトにより手続きが異なりますので、当該事業者の指示する方法によりアカウントの発行手続きを行ってください。

MEXCBT
活用開始

教員及び生徒は、学習eポータル標準モデル準拠ソフトを窓口として、MEXCBTの利用を開始します。
※運用の手順等は「MEXCBT運用マニュアル」参照

令和7年度新設校については、令和7年1月初めを目途に作業開始可能時期を別途連絡します。

MEXCBT

※Internet Explorerには対応しておりません。Microsoft Edge、Google Chrome、Safari

設置者 (公立)

1 設置者情報 新規登録

2 利用学校 登録

4 登録情報 確認修正

5 ファイル 管理

6 テスト作成 サイト 利用申込

※テスト作成サイトの利用申込を行うには、「1 設置者情報新規登録」が必要となります。

設置者 (国立・私立)

1 設置者情報 新規登録

3 管理学校 追加

4 登録情報 確認修正

5 ファイル 管理

6 テスト作成 サイト 利用申込

学校担当者

1 学校情報 修正

2 ファイル 管理

※公立、国立・私立の設置者と学校担当者でメニューが分かれています。
上は公立学校の登録情報の追加を行う例です。

【参考】CASE 3：（新たな利用学校の登録はなく、） 生徒のアカウントの発行のみを追加で行う場合

生徒のアカウント発行の手続きは、各設置者が契約している学習eポータルによって異なります。学習eポータル導入時等に提供されたマニュアル等により手続きを行ってください。

また、**生徒のアカウントの割当**（どの児童生徒にどのアカウントを使用させることにするかを学校で決めること）も必要です。

問い合わせ連絡先は「MEXCBT運用支援サイト」に記載していますので、参照してください。

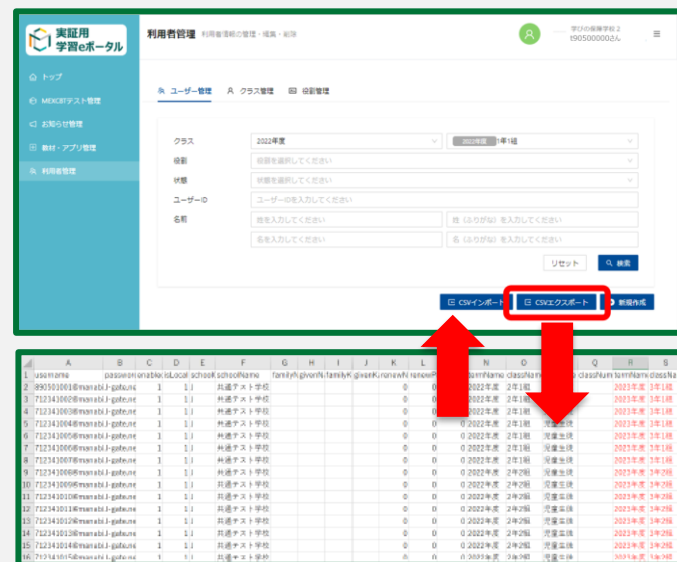
<https://support2.mexcbt.mext.go.jp/contact/>

※ 以下は、実証用学習eポータルで学年を一括追加する場合の作業手順です。

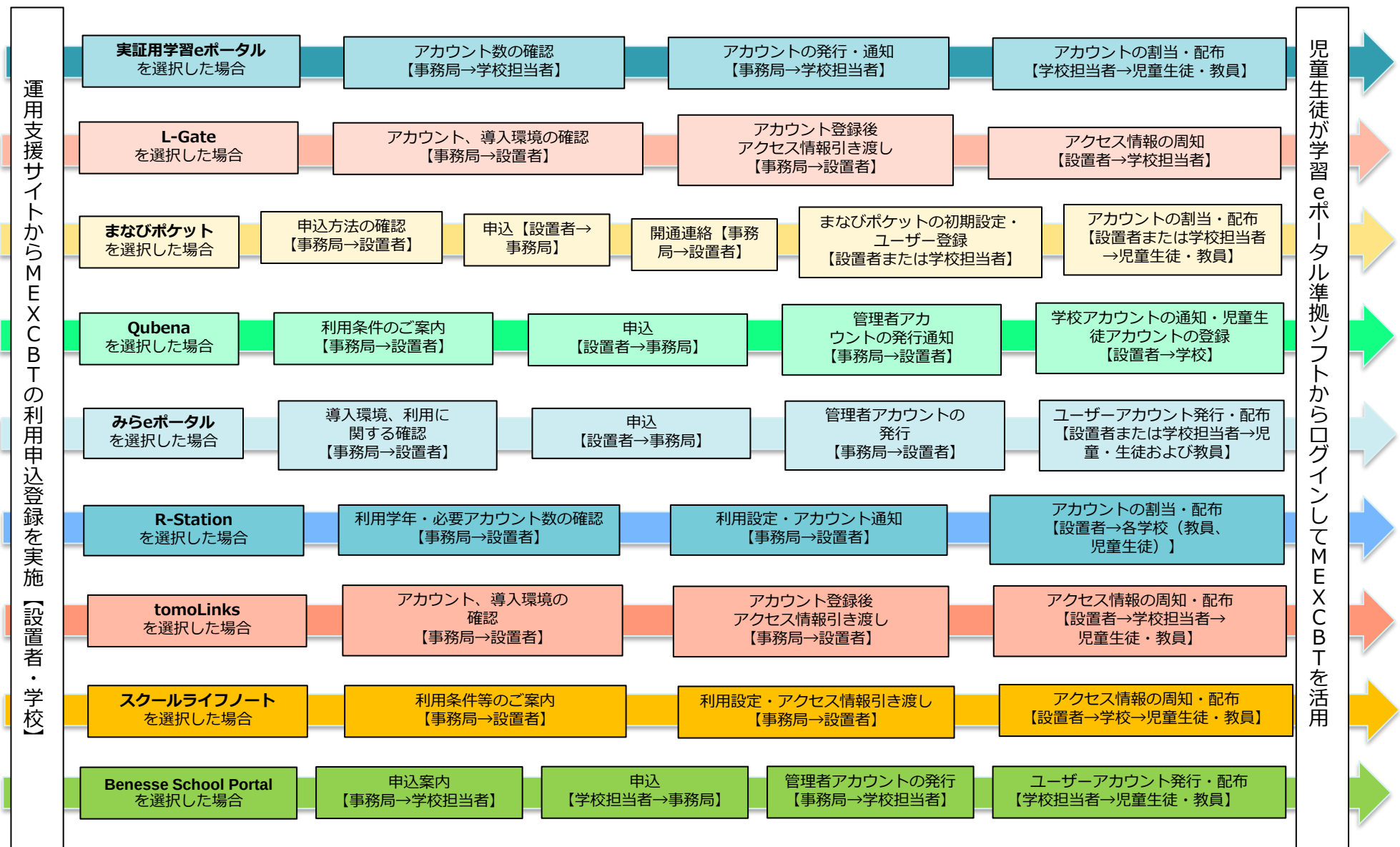
（最新の運用マニュアル第8章「年次更新(アカウント情報の変更・追加)をする」を必ず参照してください。）。

<参考：実証用学習eポータルでのアカウントの一括追加>

- ① 「利用者管理」を選択し、「ユーザー管理」を開きます。
「CSVエクスポート」をクリックして、任意のCSVファイルをダウンロードします。
- ② エクスポートしたユーザー情報CSVファイルをExcelで開き、マニュアルに従って各項目を入力し、追加するアカウント情報が記載されたCSVを完成させます。
- ③ 完成させたCSVファイルをインポートします。
- ④ インポート完了後、「ユーザー管理」タブで、アカウントが追加されていることを確認してください。



(3) 学習eポータル標準準拠ソフトのアカウント発行手続きイメージ



※事務局は次の通りです。実証用学習eポータル:文部科学省委託事業者(オンライン学習システム推進コンソーシアム) L-Gate:株式会社内田洋行 まなびポケット:NTTコミュニケーションズ株式会社 Qubena:株式会社COMPASS
みらeポータル:株式会社ネットラーニング R-Station:株式会社両備システムズ tomoLinks:コニカミノルタ株式会社 スクールライフノート:株式会社EDUCOM Benesse School Portal:株式会社ベネッセコーポレーション
※現在、Open Platform for Education(日本電気株式会社)、Studyplus for School(スタディプラス株式会社)は、新規申込を受け付けていません。

4. サンプル問題（中学校理科）を 活用した事前検証 【事前準備3】

- (1) サンプル問題（中学校理科）の作成・公開について
- (2) 令和7年度調査「中学校理科」の実施に向けた事前検証

(1) サンプル問題（中学校理科）の作成・公開について

①趣旨

「令和7年度以降の全国学力・学習状況調査（悉皆調査）CBTでの実施について」（令和6年9月文部科学省総合教育政策局参事官(調査企画担当)付学力調査室）において、「生徒や教師が端末を用いた調査に円滑に移行できるよう、令和6年秋頃を目途に、各学校においてサンプル問題（中学校理科）にMEXCBT上で取り組めるような環境を整備する。」としています。

これを踏まえ、文部科学省・国立教育政策研究所において、以下のとおり**サンプル問題（中学校理科）**を作成し、**MEXCBT上に公開**します。

<サンプル問題の公開予定>

	公開予定日	公開内容
第1弾	令和6年10月末	通常問題【10問程度】 ※4月の本番の調査問題で使用する可能性のある解答方式を含む様々な問題を準備しています。
第2弾	令和7年1月	特別な配慮を必要とする生徒のための問題 (拡大文字問題・ルビ振り問題) ※内容は基本的に通常問題と同じとなる見通しです。

<留意事項>

本サンプル問題を作成・搭載する目的は、生徒や教師が端末を用いた調査に円滑に移行できるようにすることです。

このため、本サンプル問題は、全国学力・学習状況調査で問いたい資質・能力を問う問題とすることよりも、4月の本番の調査問題で使用する可能性のある解答方式に生徒が慣れることができる問題にすることを重視して作成しています。このことをご理解いただいた上でサンプル問題をご利用いただくようお願いします。

②今後のスケジュール（サンプル問題（中学校理科）関係）

10月中旬	文部科学省より事務連絡発出 ・本日の説明会での主な説明内容について （サンプル問題（中学校理科）の掲載を含む）
10月末	文部科学省より事務連絡発出 ・サンプル問題（中学校理科）のMEXCBTへの搭載について 報道発表・HP掲載 ・サンプル問題（中学校理科）の内容等について
12月	担当者説明会 ・事前検証の詳細を説明 文部科学省より事務連絡発出 ・事前検証実施のお願い（令和7年1～3月）
1月	文部科学省より事務連絡発出 ・サンプル問題（中学校理科）のうち特別な配慮を必要とする生徒のための問題の搭載について 文部科学省より事務連絡発出 ・CD調査（学校の基本情報確認）について （この中で中学校理科の実施希望日を調査）

(2) 令和7年度調査「中学校理科」の実施に向けた事前検証

①目的・内容

目的	MEXCBT上での理科の問題の閲覧、解答等を正常に行えるかなど、ICT環境・端末操作の確認を行う。
実施日	令和7年1月～3月の任意の日 (注1) 令和7年度調査「中学校理科」の実施希望日を1月末までにD調査にて登録いただく予定です。4月17日を希望する場合は、事前検証を1月末までに実施することを推奨します。 (注2) 令和5年度英語「話すこと」調査に向けて令和5年2～3月に実施した「事前検証」では、事前に実施日を各学校と調整して決定し、実施状況についても確認しました。 今回は令和5年の「事前検証」のような実施日の調整や実施状況の確認は行わない予定です。 各学校において適切に実施いただくようお願いいたします。
所要時間	約30分（予定） (注3) 各学校の判断で、教育課程上の授業時数に計上することができます。
対象者	令和7年度調査に参加予定の全ての中学校等において、令和7年度調査で中学校理科を実施する全生徒（令和6年度の中学校2年生）
実施内容	対象者全員が、4月の調査当日に近い環境で、サンプル問題（中学校理科）に取り組む。

②事前検証に向けた準備

1. 令和7年度調査で中学校理科を実施する全生徒（令和6年度の中学校2年生）に、学習eポータルのアカウントを割り当て、MEXCBTを利用できるようにしてください。

2. 事前検証の実施日時・場所の検討を各学校で始めてください。

（注1）令和5年度英語「話すこと」調査に向けて令和5年2～3月に実施した「事前検証」では、調査実施事業者が実施日を各学校と調整して決定し、実施状況についても確認させていただきました。今回は令和5年の「事前検証」のような実施日の調整や実施状況の確認は行いません。各学校において日時・場所を決定いただくようお願いいたします。

（注2）事前検証は、4月の調査本番に向けた「接続環境確認」を兼ねているため、極力本番に近い環境で実施することを検討いただくようお願いします。4月の調査本番を学年全体で一斉に実施する予定であれば、事前検証も学年全体で実施することが望ましいです。